

三階教に關する隋唐

の古碑 (補遺)

神田喜一郎

予は昨年本誌に「三階教に關する隋唐の古碑」なる一文を掲載せしが、當時匆率の間に稿を成せしを以て、今にして之を見れば補正を要すべき個所頗る多し。然るに予は其後支那に遊び、天津に舊識の間なる羅振玉先生を訪問せしに、先生は近く刊行になりし先生の文集永豐郷人稿を贈られたるが、歸朝後之を翻閱するに及び、其の雪堂金石文字跋尾に端らずも予が曩に本誌に紹介せし三階教に關する隋唐の古碑の二三に就きて先生の考證のあることを發見したり。即ち同書卷四に收められたる。

菑禪師塔銘跋

隋信行禪師興教碑宋拓本跋

法藏禪師塔銘跋

道安禪師塔記跋

三階教に關する隋唐の古碑

の四篇是なり。但だこの中隋信行禪師興教碑宋拓本跋を除きたる他の三篇の文は先生の舊著讀碑小箋に見えたる所と全く同一なりしを以て稍失望したるが、隋信行禪師興教碑宋拓本跋に至りては予は始めて之を寓目するを得たり。其所謂隋信行禪師興教碑宋拓本跋は予が本誌前々號に紹介したるものにて、羅振玉先生の跋文には予の未だ言ひ及ばざりし點を指摘したれば次に羅先生の全文を録して予が前稿の補正に代ふべし

此碑唐越王貞撰。薛稷書。金石集古兩錄均箸錄。金石略寶刻類編寶刻叢編亦載之。不知何時佚去。本朝金石家無言及者。此道州何氏藏宋拓文。文已不全。殆缺下半。中間亦缺十餘行。據金石略。言此碑有陰。此又缺碑陰也。諸家著錄云。碑立於神龍二年八月。此本不可見。金石錄又載信行禪師碑。越王撰。張廷珪八分書。寶刻叢編又有開皇十四年信行禪師傳法碑。僧法琳撰。然則信行在隋唐間。昔有三碑。此其一焉耳。

こゝに寶刻叢編に見えたりといふ開皇十四年信行禪師傳法碑は、予の前に全く氣付かざりしものなり。而

してそは予が信行禪師舍利塔碑として掲けたるものご別なるが如くなれば遺忘したるものなるを、今又羅先生の文を藉りて予が遺漏を補ひ得たるは幸なり。但だ羅先生の文中、信行禪師興敎碑に關し清朝金石家が全く言及する所なかりしに記せるは、稍當らざるの感あり、魏錫會の續語堂碑錄に已に之を注意せるは予の前稿に述べ置きたるが如し。

因みに昨秋龍谷大學が敦煌出土に稱する古經卷數種を購ひたる中、偶然從來未だ知られざりし三階敎の佚書ありしが、近日友人高雄義羅先生が隋唐間に信行の碑三ありと言へるは四ありと訂正せざるべからず。羅先生は予の擧げし信行禪師舍利塔碑を未だ知られざりしが如し。然れども三階敎に關する隋唐の古碑として予が前稿に擧げし以外に、更に信行禪師傳法碑なるもの、存在せしことを今羅先生によりて敎へられたるは感謝せざるべからざるなり。又羅先生の文中金不錄を引いて越王貞撰張廷珪八分書なる信行禪師を擧げたるがこは予の前稿を草せし時一時注意するを堅君は之が考證を發表する由なり。更に又聞く所によれば京都の

某寺よりも近時三階敎に關する古本の發見せられしに云ふ。若し然らば從來殆ど不明とせられし三階敎理の闡明せらるゝも當に近きにあるべし。予は刮目して之を待たんぞす。